

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【木崎中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・全て教科において、基礎・基本の定着に向けた学習指導の充実を図るとともに、生徒が学習内容と実生活とのつながりを実感できる授業の実践を継続して行っていく。 ・生徒一人ひとりの弱点を確認し自覚させ、個別最適な学びを実現させるために、次年度は朝自習を朝チャレンジと呼称を改め、自ら課題を選択させ、学習に取り組ませていく。
思考・判断・表現	・「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」のうち「考えを引き出し、思考が深まる発問」「言語活動の充実」「資料の収集、読み取り、活用」を重点とした学習活動のより一層の充実に努める。 ・ICT等の施行ツールを授業で活用するための校内研修の時間を設け、子どもたちの探求のため、他者との対話や協働、自分の考えを明確にしたり、広げたり、深めたりする授業を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	・令和元年度からの研究の積み重ねを踏まえ、令和6年度は、教師が「学びのポイント(じ・し・や・く)」の視点、特に「主体的な学び」を強化する授業を展開し、「生徒の学びに向かう力」を中心とした学力を身に付ける。 ・教科会等で授業のアイデアを共有したり、教材を共有できる環境を整えることで、「個別最適な学び」を保証する授業を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果を市平均との比較で、国語・数学の「知識・技能」において平均3pt向上させる。	⇒ 週2回10分間の朝スタディサプリの時間を新設し、国語、数学の基礎的・基本的な学習の反復・習熟を図る。生徒が、学習内容と実生活とのつながりをより実感できる授業を実践する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果を市平均との比較で、国語・数学の「思考・判断・表現」において平均2pt向上させる。	⇒ さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業のうち「考えを引き出し、思考が深まる発問」「言語活動の充実」「資料の収集、読み取り、活用」を重点とした学習活動のより一層の充実に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	前年度行った校内調査の質問を「各教科の学習に興味・関心がある」に変更して校内調査を年3回行い、肯定的な回答の割合を2.5pt向上させる。	⇒ さいたま市の目指す子どもの姿「興味・関心を広げ探究的に学ぶ子ども」の視点を入れ、生徒の興味・関心を高める授業を再構築すると共に、生徒の学ぼうとする力の育成を図る。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」において、市の平均回答率との比較は、2年生の国語では+2.4pt、数学では+4.4pt上回り、平均3.4ptと目標を達成することができた。しかし1年生では目標を達成することができなかった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」において、市の平均回答率との比較は、2年生の国語では+2.3pt、数学では+4.4pt上回り、平均3.4ptと目標を達成することができた。しかし1年生では目標を達成することができなかった。	B
主体的に学習に取り組む態度	校内調査の質問を「各教科の学習に興味・関心がある」に変更して校内調査を年3回行い、肯定的な回答の割合を2.5pt向上させるという目標に対して、9教科中2教科で達成できたものの、全教科達成することはできなかった。しかし、2.5ptには届かなかったものの肯定的な回答が上昇できた教科は6教科であった。全教科で肯定的な回答が7割を超えた。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+4pt、数学-0.7ptであった。数学の表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるか問う問題で、無回答率が高くなっていた。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+12.8pt、数学+6ptであった。特に国語の自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題でR4年度は県、全国より大きく下回っていたが、R5年度は上回ることができた。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は90%を超えており、埼玉県、全国の値を大きく超えている。今後もより一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に取り組んでいく。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	・国語、社会、理科において、市の平均回答率を上回ったが、数学においては市の平均回答率を若干下回る結果となった。特に社会の「知識・技能」では、高い定着度が見られた。今後も、子ども主体の学びとなるよう授業改善に取り組んでいく。 ・生活習慣では、「学校生活」や「主体的対話的で深い学び」の面で、「授業中、分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか」「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において肯定的な回答をした生徒の割合が高くなっていた。
中2	・国語、数学、理科において、市の平均回答率を上回ったが、社会においては市の平均回答率を若干下回る結果となった。特に数学の「関数」や「データの活用」の問題では、高い理解度が見られた。 ・生活習慣では、「学校生活」の面で、「学校に行くのは楽しいですか」や「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、お互いの意見のよさを解決方法さきめていますか」において肯定的な回答をした生徒の割合が高くなっていた。
中3	・生活習慣では、「学校生活」や「主体的対話的で深い学び」の面で、「学校に行くのは楽しいですか」や「話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか」「課題に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」において肯定的な回答をした生徒の割合が高くなっており、学習面において、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし 目標・策の見直し	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒